

節分



里だより

No.374

令和5年3月1日

一発行一

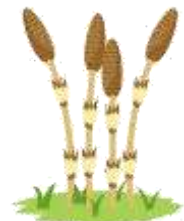
菊池郡大津町平川400番地

社会福祉法人 清和会

つくしの里

TEL 096-293-1550

FAX 096-293-1579



行事予定・
ありがとうございました

編集後記……………6

サービス向上委員会より・
行事報告……………5

職員より・医務より……………4

相談より……………3

サビ管より……………2

施設長より……………1

(ページ)

三月号もへで



つくしの里 ホームページ

<http://www.tsukushinosato.or.jp>



施設長より

施設生活と権利擁護



一雨ごとに気温も和らぎ春の気配が近づいています。すでに桜開花予想が出されていますが、つくしの里では、施設南側の梅のつぼみが膨らみ開花の時を待っています。

巷では、コロナ対策について、三月にはマスク着用は個人判断になることや、五月には五類に引き下げられるなどの話題も出ていますが、医療機関や高齢者施設等の訪問の際はマスク着用を推奨。そこで生活される利用者さんや仕事をする私たちには無縁の話題のようです。そもそも田舎で育ったにも関わらず、壮年期に入った頃から花粉症を発症した私としては、一年中「NOMASK・NOLIFE」です。

さて、一月にクラスターが起こったため収束までの期間、施設に泊まりこみました。これまでも時折泊まることはありましたが、連続で三週間ほどというのは、入職前の新人研修の時以来。熊本地震でもここまでではなかったと思います。当時の新人研修が宿泊だった理由は「入所されている利用者さんの気持ちに分かるように」とのことでした。ご家族の方にも、自分の子どもさんがどのような生活をしているのか知っていただくために、宿泊を勧めたこともあったと思います。利用者さんと同じ時間を過ごし、生活を共有していたため、少しは利用者さんの気持ちを理解しているつもりでいましたが、「つもり」は「つもり」だったことを今回の宿泊で気づかされました。

利用者さんの生活の場は、職員の仕事場。そこで生活するとすると、いろいろ必要となるものに気づきます。まずは、生活の基盤となる「衣食住」の大切さです。

最初は「衣」。泊まり込み覚悟で、仕事着をはじめ必要な衣類を持参しますが、あつという間に替えがなくなります。洗濯がしたくて、したくてたまらなくなりです。利用者さんが洗濯に出されて、自分の衣類が返ってくるのを心待ちにされている気持ちに分かる気がします。

次に「食」です。インスタント食品を買いだめしましたが、数日もしないうちに飽きてしまいます。食べられるだけでもありがたいことなのですが、検査が美味しいのなんのつて。それも毎日、毎食違う料理。栄養士・調理員さんに感謝です。

続きまして「住」。「住」といっても幅は広く、まずは「風呂」。人によってシャワー派・湯船派に分かれるようですが、とりあえず汗を流したい。ゆつくり湯船に浸かりたくくなります。また、空き時間は「部屋」で自分の時間・空間を過ごしたくなります。何をやるわけでもなく、自分の時間が欲しくなります。次に、「寝」。これに関しては、アウトドアが好きでどこでも眠れる体質のようで、あまり不自由は感じませんでしたが、利用者さんにとっては、昼間の疲れを癒し、心身を休ませる時間が必要です。最後に「外出」。外に出て陽の光を浴びたくくなります。というより、限られた場所から「出たい」と言った感情の方が強いでしょうか。以上のことが特に感じたものでした。

生活をするとなると、この他、趣味嗜好や金銭管理、健康管理等々、付随したものが多く出てきます。当然のことだと思いでしようが、施設での生活という制限をかけられると、余計にそれらが必要と感ずるものです。同じ体験は出来なくとも「利用者さん目線」「もし自分だったら」の視点が、権利擁護の第一歩なのではないかと再確認した出来事でした。

施設長 松永一博

サビ管より

昨日、熊本城マラソン2023が三年ぶりに開催され、市内を中心に多くの人で賑わっていました。

沿道にも多くの方が集まっているのは目にしましたが、集計では二十三万人を超える方が応援に駆け付けたとのことでした。ランナーを励まそう、勇気づけようとする思いやりを持った方々が、悪天候においても力になると足を運ばれた、その気持ちの数字と捉えると、大変心打たれるものがありました。

当施設からも三名の職員が参加しました。三名ともに無事完走。全く走ることに気が向かず、自分は走れるわけがないと思いついて入っている私からすれば、ほんとにすごいことだと思いついても感動しました。

どれだけ練習を重ねてきたのか、当日に向けて準備してきたのか全く分かりませんが、未知の距離であることは事前に聞いていましたので、限界を作らず、必死になって足を進めている姿が目につかび、感動させられました。もちろん「完走を目指して走ります」と力強い言葉とその意気込みも知っていました。が、「ゴールまでの道中では、きつい、つらい、やめよう、もう無理：等々、幾度となく諦めようとする気持ちがあったのではなにかと思いついて、それでも、自分に負けることなく、目標を達成できたのは、何にも負けない強い決意と強い思いがあったからだと思います。

同じように、参加された方、誰もがそれぞれの想いを胸に走られたことだと思います。どんな想いを持って、どんな目標を掲げて走っているのか見ているだけでは分かりません。しかし、

その背景にある何かを感じよう、信念に目を向けようという気持ちで必死になって歩を進めている姿を見ると、とても勇気づけられ、自分も必死になりたい、そんな気持ちにさせられました。

また、あくまで個人的な考えではありますが、一人ひとりの考えや背景にある想いに目を向けようとする事、理解しようとする事、何か力になれることが無いかと自分を見つめる事、前進しようとする努力を認める事が、利用者支援をはじめ、職員間の連携、チームを形成していく上で欠かせない事になっていくのではないのでしょうか。

参加された方を中心に、大会関係者の方々、ボランティアの方、沿道やテレビで大きな声援を送り応援された方のおかげで、熊本に元気を、人に勇気や希望を与えていただいたように思います。皆様ありがとうございました。

支援課長 今田有哉

懸命に走るN主任！



出場された職員の皆さん
完走おめでとうございます☆
大変お疲れ様でした(^)/

相談より

療育について



今回は療育について話したいと思います。療育は発達支援とも呼ばれ、障害のあるお子さまやその可能性のあるお子さまの発達を促し、自立して生活できるように援助する取り組みです。元々、肢体不自由児の社会的な自立を目標に「医療」と「教育」を並行して進めることを指した言葉でした。

ここ数年で子どもの療育をされる事業所が大幅に増え、今は大津町だけでも十か所以上存在しています。それだけニーズがあるということでもあります。子どもの療育は就学前の児童発達支援、就学後の放課後等デイサービスに分かれています。事業が別になる為、どちらかしかされていない事業所と多機能型として両方されている事業所がありますが、それだけ増えた今の状況でも放課後等デイサービスの方は不足しています。

昨年十二月に発表された最新の統計では、小中学校の通常クラス在籍生徒の八・八%が発達障害の可能性があるとのことでした。これはあくまでも通常クラス在籍者の数字である為、支援クラスに在籍している生徒の他に、クラスに三名程度は疑いのある生徒がいることとなります。その生徒は療育のチャンスに恵まれなかったという見方もできます。もしかすると自分でいろいろなことを乗り越えられる力があつて、ご家族も気付かなかったのかもしれない。しかし、小学校高学年になると、発達の問題（学力・コミュニケーションなど）から不登校などの二次的な問題に発展するケースもあります。

療育は早い子で二歳前後から希望されます。もちろん保護者からの依頼です。療育の効果は、直接受けた場合と受けていない場合を比べることができず、即効性のある魔法でもない為、すぐには分かりませんが、半年単位、一年単位で見ると大きな成長が感じられます。療育を開始してすぐは、私も毎月事業所を訪問しますが、三か月以降は半年に一回の頻度になり、久しぶりに会って、あまりの成長に驚くことも多々あります。やはりスタートは早い方が効果的だと感じます。普通に自宅や保育園・幼稚園で生活していても、家族や先生たちの愛情、友達からの刺激で成長されますが、専門的な視点から、どこに課題があつて、どこを支援すれば良いか、分かって支援をしてもらえると、プラスアルファの効果を得られるのではないかと思います。また、療育先だけの話ではなく、それを家族や保育園・幼稚園と共有することで更に効果が高まるのではないのでしょうか。私たちの子どもの頃は、療育はごく少数で専門的な機関でしか受けられず、存在さえほぼ知られていなかったと思います。それが今はたくさんの方の事業所が増えて、病院から診断を受けなくても療育の必要性が認められれば、気軽に受けることができます。就学前までは保育園と一緒に無償化の対象にもなっています。ご家族としては、受け入れがたい気持ちがあるかもしれませんが、少しでも気になるところがあるのであれば、利用して損することはありません。親が自分で「どうにかしないと」と抱え込む必要もありません。保育園・幼稚園と同じでプロに任せるところは任せて良いのではないかと思います。

子どもたちの明るい未来を信じて、一歩踏み出す勇気を…。

相談支援専門員 井上 真次

職員より



昨年度、認知症の研修に参加させていただいたことがきっかけで、勉強する機会が増えました。認知症とは…有名なものがアルツハイマー型認知症だと思います。ドラマでも認知症関連のものを時々目にします。忘れてしまう・できていたことができなくなってしまう等、症状は人それぞれです。私の祖父も100歳を超えて亡くなりましたが、認知症でした。急に怒ったり、壁に向かってトイレをしたり、時にはいなくなったこともありましたが（その時は自分の山にいました）。当時、私自身が認知症について詳しく知らなかったため、父や母が対応している姿を、ただただ見ていることしかできませんでした。

つくしの里にも認知症の方がいます。実際に診断がされていないだけで、認知症の傾向にある方もいらっしゃるのではないかと思います。研修で学んだことは「まず少しの変化に気付く事」でした。日々支援に携わる中で、ふとした疑問（最近表情が乏しいなあ、忘れ物が多いなあ…等）を大切にし、利用者さんと関わっていきたいと思います。認知症に関しても、まだまだ知識が浅いです。本を読んだり、参考書を解いたり、勉強することは好きなので、今後も続けていきたいと思います。（支援員 尾崎あ）

月日が経つのは早く、昨年3月の研修を経て働き始め、もう1年経とうとしています。この1年間は利用者支援、利用者さんとのコミュニケーション、班での活動、デスクワークなど覚えることが沢山のようで、必死についていくのがやっとでした。早く一人前にならなくてはと思うのですが、先輩職員に甘えてばかりいて反省の毎日です。

しかしながら成長できた部分もあります。当初は、早く利用者さんに受け入れてもらえるよう必死にコミュニケーションをとっても、ぎこちない会話しかできませんでした。ある日、こちらが一方的に話しているだけでコミュニケーションをとっているとは言えないと気づき、利用者さんのペースに合わせて毎日笑顔で話しかけるようにしました。今では、悩み事なども話してくれるようになり、利用者さんとの日々の交流が癒しとなっています。今後も自分に出来る事を精一杯おこなっていこうと思います。（支援員 山内）

医務より



今月号に健診結果（2回目の健康診断・歯科検診など）を同封していますので、ご確認ください。結果について質問など何かあれば、いつでもご連絡ください。

ワクチンは希望された方へ、インフルエンザ・コロナ（オミクロン株対応ワクチン）の接種が終了しています。

今年度もコロナに振り回された1年でした。感染者数は少し落ち着いたようにもみえますが、まだまだ油断ならない状況に変わりありません。リスクレベルが2になり、外泊・外出の制限もありませんが、年末年始より実施している検査は引き続き行っていますので、ご協力をお願いします。現在、外出だけの場合は検査を行っていませんが、人の出入りの多い場所への行き来はできるだけ控えるようにお願いします。インフルエンザも流行しています。コロナ・インフルエンザと気の抜けない毎日ですが、自分たちでできる感染対策を行い、この通常の生活ができる環境のまま新しい年度が迎えられたらと思います。

（看護師 松村）

サービス向上委員会より



■ 地域交流【支援係長 竹下・支援員 上村・村上ま】

ここ数年は感染症の影響で人との交流や外に出掛ける機会が減りつつあります。しかし「つくしの里」の設立には地域住民の方々の理解をいただいたという経緯を忘れないよう、コロナ禍でも出来る事、利用者さんと地域の架け橋になりたいと考え活動しています。

今年度は、大津北小学校の「下校見守り」に参加させていただいています。以前のように交流会（レクリエーション等）は出来なくても、下校時に「さよなら」「ありがとうございます」と児童に声を掛けられ、参加している利用者さんは、とても嬉しそうです。ちょっとした時間でも、こうして地域の方々と触れ合える時間がとても大切だと実感しています。交流会や運動会に招待していただけるような環境に戻る事を願い、これからも下校見守りを続けていきたいと思えます。

行事報告 ※ 1/21（土）～2/20（月）の実施分について報告いたします

★ 節分会【2月2日（木）つくしの里】

今年の節分は「阿蘇山から呼んだ鬼」という設定で利用者さんに紹介し、雰囲気作りを行いました。鬼を退治するというレクリエーションの要素も含め、ボールを豆に見立て、鬼の背負っているカゴにボールを入れて貰いました。鬼の登場に驚いてしまう方や、たくさんボールを一度に鬼のカゴに入れようとする方もいて、利用者さんそれぞれで楽しまれていました。豆まき（ボール投げ）の後は1年の息災を祈りつつ、みんなでお菓子を食べました。今年一発目の行事で、利用者さんにもこやかな雰囲気を楽しまれていました。

（支援員 尾崎か）

★ 生活介護⑤班慰労会【2月14日（火）つくしの里】

1月に予定していた外出がクラスター発生で中止となり、代わりに1ヵ月遅れで冬季慰労会を実施しました。

午前中はピンポン玉入れや輪ゴムリレー、神経衰弱などのレクリエーションとお楽しみ抽選会を行い、午後はカラオケ大会でした。皆さん笑顔で参加され、とても盛り上がりました。特にカラオケの盛り上がりはすごく、ここぞとばかりに熱唱されていました。一曲だけでは物足りなさそうな方もいらっしゃいました。昼食はお弁当とデザートを取アウトしました。お弁当はとんかつ弁当かお寿司。デザートはケーキを3種類用意し、好きなものを選んでもらいました。結構な量がありましたが、皆さんペロリと完食。「美味しかった!」「お腹いっぱい!」とご満足いただけたようでした。

（支援員 田中）



行事予定



☆ バイキング昼食会 (つくしの里)

期 日：3月2日 (木)

内 容：いちごフェアと題し、旬のいちごを味わいます。パエリアやキッシュなど、バイキングならではのランチメニューも楽しみです♪



☆ 面談・通帳確認 (つくしの里)

期 日：3月6日 (月)～24日 (金)

内 容：下期経過報告と支援計画原案作成に係る面談をさせていただきます。
日程については別紙文書をご確認ください。



☆ 施設・後見人・家族情報交換会 (つくしの里)

期 日：3月25日 (土) 10:00～

内 容：今回は、つくしの里の学習訓練棟で実施します。次年度の事業計画等、重要なお知らせをさせていただきます。是非ご出席ください。

ありがとうございました

今月の掲載分は、

令和五年一月二十一日～

令和五年二月二十日です

【寄付・寄贈】

- ・石塚正司 様
- ・久保昭憲 様
- ・田上修二 様
- ・藤本美紀 様
- ・山口修 様
- ・大畠照雄 様
- ・田上恵子 様
- ・藤田孝志 様
- ・前原透 様
- ・大津町社会福祉協議会 様

【ボランテニア】

- ・村里和洋 様

誠にありがとうございました。
利用者さんの為に使用させて頂きます。



※お詫びとおことわり
里だより担当では、毎月十分注意して、記事の記載、確認をしておりますが、誤字脱字等がございましたら何卒ご容赦していただきたく存じます。

編集後記

暦の上では春。夕方までの明るい時間も少しずつ長くなってきました。利用者さんたちも徐々に買い物や食事に出掛けられるようになりました。コロナもですがインフルエンザ等の感染症には十分注意して、今後も予防に努めたいと思います。

施設PR委員会 今月の1枚!

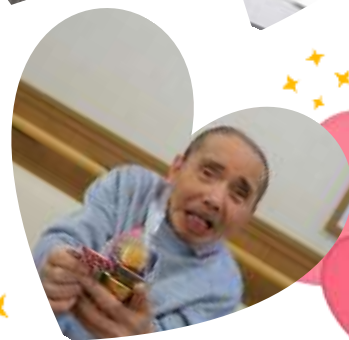
鬼は外一



福は内一



～HAPPY Valentine～



バレンタインデー行事のーコマ(*~*)